

## ⑤小学校授業の民間プール利用

公民連携事例紹介（教育部）

### これはなに？

→新玉小学校の水泳授業について、神奈中スイミングスクール小田原と協力し、プロの水泳コーチによる指導を行うものです。移動時間も含め授業の1～2時間目を利用し、普段通りの授業の割り振りの中でこの取り組みを行います。今回の授業は1～6学年を2学年づつ3つに分け特別支援級も含めた4グループを各5回の全20回行います。新玉小学校と神奈中スイミングスクールまでの距離は徒歩で5分です。

### どういった効果があるのか

→民間スイミングスクールの休日（今回は月曜日）に行い、施設の有効利用となります。本来の授業では先生と補助員による少ない人数ですが、今回は泳力によって4つのクラスに分けて（コーチ5人と監視体制として監視員1名と教員2名）きめ細かい指導がなされます。児童の側としてはきれいな施設で泳ぐための様々な道具を利用でき、児童・先生両者ともに効果が期待できます。

### 今後の展開については？

→民間スイミングスクールは送迎バスを持つところもあり、この取り組みは拡大が可能です。

さて市内の小中学校プールは多くが設置から40年以上を経過しています。近年は補修や大規模改修などの経費もかかり、今後のあり方が検討課題に上がっていました。

また教育現場での働き方改革の実現にむけて、残業時間の削減の実現など環境改善が求められています。

### 和宏の目

公共施設再編という観点から過去に一般質問をした経緯があります。後日動画にて詳細報告します。



## 鈴木かずひろ 市政レポート



このたび『ねぶ川、里山を守る会』の皆様のご尽力で、白糸川上流の整備が行われ遊歩道が開通しました。

これは小田原市市民活動応援補助金交付制度の仕組みを使って行われました。

現地は重機の入ることの出来ない 厳しい急斜面にあります。

地元の方々が自ら草刈機を使用し、人力で土のうを運搬して作られました。インノウの滝周辺は昔は小学校の遠足のコースだったそうです。

片浦地区活性化の取り組みが進んでいます。

## INDEX

### 令和4年6月定例会報告

- ①公共施設包括管理業務委託の進展について
- ②アニメを活かしたまちづくり
- ③学校給食に地元食材を
- ④デジタル田園都市の採択
- ⑤小学校授業の民間プール利用
- ⑥市民会館跡地利用について

小田原市議会議員

# 鈴木かずひろ

一般質問は   の帯 委員会審議は   の帯でご提示いたします

## ⑥市民会館跡地利用について

総務常任委員会報告より

**この件の経緯は？** →三の丸ホールの稼働により、今までの市民会館は取り壊され（除却され）ます。市民会館撤去費用が計上され、活用想定図が示されました。



3つの地域に目的を定めて活用を図ります。回遊を促し地域住民の生活を豊かにし、広場機能を活用します。

今後は関係団体や地域住民との話し合いを通じて令和4年度中に「市民会館跡地活用計画」を策定する予定です。

「まちのリビング」というコンセプトを設けています。

### 和宏の目

いざ取り壊すとなると寂しい限りですが、その後の活用を考え新しい小田原を提案してゆく必要があります。

箱根駅伝の往路中継の際に小田原城が見えるようになります。

## ①公共施設包括管理業務委託の進展

総務常任委員会報告より

### これはなに？

→小田原市の持つ建物（公共施設等）の保守（建物の維持管理）をまとめて民間にお願いすることで、維持水準を高め経費削減を目指すものです。

### 内容は？

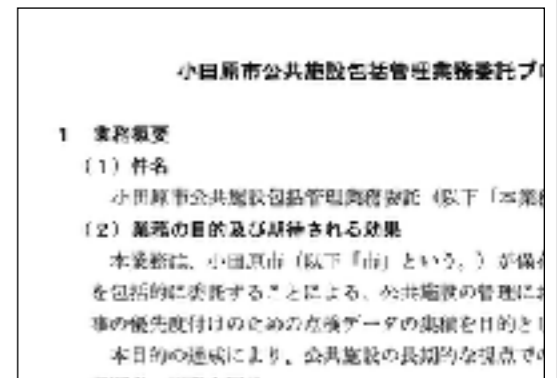
→市役所本庁舎ほか108の施設等の保守点検、清掃等の管理業務を民間に委託します。いよいよこの事業の公募が始まります。業務期間は5年間とし、総事業費は34億3200万円を上限としています。

### 今後のスケジュール（報告資料より抜粋）

- 6月9日より参加申込期間
- 7月25日より企画提案提出期間
- 8月29日プレゼンテーション
- 9月上旬審査結果公表
- 令和5年3月契約締結
- 令和5年4月業務開始

### 審査基準は？

→200点満点で管理業務の実行性や地域経済の貢献度などを審査して評価選考するものです。



小田原市ホームページより

### 和宏の目

日本中の自治体が注目している案件でもあります。

現在は個別業者に対しバラバラに発注・契約しているため、膨大な事務作業が発生しています。

審査基準の中にある地域貢献の点数配分は多くなっています。

### 鈴木かずひろ Profile

昭和44年4月13日生まれ 小田原市立早川小学校、小田原市立城南中学校、神奈川県立小田原高等学校、平成4年國學院大学法学部法律学科卒業。東急ターンパイク株式会社入社 その後オーストラリア投資銀行のマッコーリーに買収されそのまま勤務。平成20年同社退社。父の後を継ぐ形で就農。

早川ミニバスケットボールクラブ指導者

平成27年4月初当選 現在2期目。

所属委員会 総務常任委員会 新病院建設調査特別委員会：委員長  
議会運営委員会：委員長 令和2年度：監査役



発行/鈴木かずひろ事務所  
〒250-0021 小田原市早川92  
E-Mail info@kazuhiko-suzuki.jp  
URL:http://www.kazuhiko-suzuki.jp

● 皆さまのご意見をお聞かせください。

TEL/FAX 0465-24-3070

## ② アニメを活かしたまちづくり

令和4年6月定例会 一般質問

### 質問の背景は？

機動戦士ガンダムで有名な富野由悠季監督が小田原ふるさと大使を引き受けてくださいました。国内8カ所で開催された『富野由悠季の世界』展は大好評に終わりました。本市も作品の背景や監督ご本人に寄り添うべきと考えます。(以下太字：質問、細字：市長答弁)

### 本市の所管はどこが担当なの？

→著作権会社との調整は観光課が窓口となり事業を進めてきた。また窓口を一本化することでスムーズな調整が可能となっている。

### 今後取り組みを進めるには？

→市民の意識醸成が必要。また富野氏の様々な作品や功績を幅広い世代に認知してもらうことが必要。市全体で盛り上がりを見せるには行政だけでなく、民間も作品を活用できるようその使用に関する著作権の取り扱いについて関係会社と調整し体制を構築する。

### 富野由悠季記念館を作るべきと考えるが？

→世界的に数多くの功績を残している富野氏の記念館を建設するのであれば、出身地の本市が適地の一つと考えている。しかし建設場所・費用・市民理解・複数の著作権会社との調整と様々な課題があることに加え、富野氏ご本人のご意向が最も重要であり必要性については慎重に進めたい。



展覧会「富野由悠季の世界」開催にあたり出版された解説書

## ③ 学校給食に地元食材を

令和4年6月定例会 一般質問

### 質問の背景は？

みなさん、給食に越前ガニが出たとか松坂牛が出たとかニュースでご覧になったことはないですか？本市でもできないかなと考えたのが今回の質問の始まりでした。(下記に質問と答弁)

**1食あたりの単価は？**→小学校は257円で主食59円、副食144円、牛乳54円。

**仕入れから食材提供までは？**→納入登録している69業者から仕入れを行なっている。各学校の栄養士は2ヶ月前までにひと月分の献立作成・注文書を教育委員会に提出し、教育委員会は毎月中旬に1ヶ月前の食材を各納入業者にまとめて発注する。

**栄養士が地場産物を使用した献立を作る上での課題は？**→地場産物を利用する上での課題としては本市の農産物の生産が少量多品種であるため、学校給食で使用できるのは、生産量の多い限られた品種の作物になることが挙げられる。

**食育を推進する上で地場産物を学校給食で積極的に利用する必要があると考えるが？**→地場産物の給食への利用は生産者の顔が見えるほか地場の産物を知ることができるなど、地域に親しみを持ち食の安全・安心の意識を高める効果がある。

**モデル校を定めて改めて取り組むべきと考えるが？**→まずは平成26年の取り組み状況を検証し、地場産物を積極的に利用するモデル校の実施について庁内関係部署・校長・栄養士・生産者等関係者による話し合いを行って参りたい。

**和宏の目** 良い答弁が頂けたと感じる一方で、文部科学省の発表によれば地場産物の使用割合が最も高いのが山口県で85.2%、国産食材では長野県の97.7%となっています。対して神奈川県では地場産物が31.4%、国産食材で81.6%となっています。地元食材がより多く給食に使われ地域経済の活性と食育につながることを期待します。本市において第2期食育推進計画と健康増進計画が一本化されることが決まっております。また、副食144円の中で小田原の魚を使うことが可能です。取組を進めて頂きたいですね。

## ④ デジタル田園都市の採択の件

総務常任委員会 報告事項

### 報告の特色

## 全国市町村1位の採択額 [採択額は2億円]

**デジタル田園都市について**→国が定めるデジタル田園都市という補助金制度に小田原市が申請したところ3事業すべてが採択されました。事業規模約4億円(総事業費4億1958万円、国の負担1/2として採択額2億979万円)。この補助金はTYPE1から3まであり「デジタル実装タイプTYPE1」での小田原市の採択額は、市町村で最高の全国1位で今年度順次導入の予定です。「TYPE1」とは他地域で既に導入されている仕組みを、これから導入しようとする自治体に対して行う支援です。

### 小田原市が採択された3事業の内容

#### ●ワイヤレスセンサー等を用いた住民参加型警戒・避難システム

河川や海岸などに設置したセンサーなどから得た情報を把握し、新たに導入する防災アプリを通して災害情報や避難情報を地域や市民の皆さまに早期に伝えるシステムを導入します。インターネットを通じて災害に対応できる環境を整備し、安全安心に暮らせるまちを実現します。新たに設置する河川水位センサーや海岸監視カメラなどで幅広く情報を集めます。

#### ●住所変更手続きのスマート化

住所変更手続きでの申請書記入の負担を軽くすることで、手間なく窓口の手続きを完了します。職員の入力作業をロボット化することで手続きの時間を短くします。スマートフォン等で事前に申請情報を入力し、手続きにかかる時間の短縮や負担を軽減します。

#### ●デジタルミュージアム

市が所有している歴史的・文化的資料について高精細のデジタルレプリカなどを作成し、デジタルミュージアムとしてインターネット上で広く公開します。ミュージアムとしていつでもどこでもアクセスできるだけでなく、貴重な資料を保存し歴史・文化を次世代に残してゆくことにも役立ちます。

**和宏の目** 先日、国内民間航空会社の取り組みが日経新聞で大きく取り上げられました。京都のいくつかの神社仏閣について仮想空間に再現し、あたかも現地を訪れているような仕組みを作るとのことです。これはコロナで行動自粛のある中、仮想空間で前もって体験してもらい実際の訪問につなげるため、今から投資して観光地や美術品・景観を仮想空間に作り上げておくのだそうです。私はデジタルミュージアムは将来への仮想空間への移行がひとつの目標と捉えています。

同様に住民台帳へのシステム導入も一つの窓口で申請が全て終わるワンストップ窓口から、自宅で好きな時間に手続きを終えることができる「訪れなくても良い窓口」への移行が最終の目標と考えます。

ワイヤレスセンサーによる避難システムは、人工知能が一人一人に個別の避難方法を教えてくれる仕組みが目標として想像できます。もちろん一足飛びには行きませんから、新しい技術を柔軟に受け入れる体制づくりが肝要と考えます。

世の中にラジオ・テレビが出てきたとき。携帯電話が現れたとき。もっと古く歴史を見れば鉄器の発明や飛行機の出現など、今までなかったものが現れて私達の生活ががらりと変わる時代の節目となる瞬間。青銅器にしがみつくなのではなく鉄器の発明に挑戦する気持ちが大事です。皆さまが面倒な思いをせずに、自然に暮らしが便利になってゆくような取り組みをしたいと考えます。皆さまのご意見をお聞かせください！